

絆 求 め て 6月25日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



資質向上講座「講演会」を実施しました！

令和3年4月27日(火)、上田女子短期大学准教授 酒井 真由子先生を講師としてお迎えし、資質向上講座(講演会)をWEBで実施しました。テーマは、「幼児教育の指導計画と保育内容、保育記録の実践」で、内容については、①文科省指導計画の基本より ②カリキュラム(教育課程)とは何か ③対話的保育カリキュラムについて ④記録について の4つの観点でお話いただきました。園での活動が一段落した16時15分からの研修だったこともあり、301名と大勢の先生方にご参加いただくことがきました。以下に研修後のレポートでお書きいただいた内容を紹介します。

<研修から学んだこと>

- 今回の研修では、対話的カリキュラムの部分が特に印象に残りました。私は、言葉かけのタイミングや内容など模索しながら保育をすることが多く、今でも正しかったのかな、余計なこと言ったのではないかなと反省することが多くありました。子どもが楽しい!もっとやりたい!と思っているとき、対話が行われているということを知り、対話についてもっと深く考えていきたいと思いました。近年、コミュニケーション能力が低下していて、会話が成り立ちにくかったり、思いが伝わりにくかったりするため、特に大切なことであるのではないかと思います。子どもの姿、言葉、内面など様々な視点に目を向けて理解を深めていきたいと思えます。
- 対話的保育カリキュラムのお話の中で、対話が重要な理由や子ども観、教育観の獲得、乳幼児の最善の利益を保障することの大切さを改めて実感しました。そして、子どもと教師が相互に関係しながら展開されていく保育の毎日が、双方にとって実り豊かな時間になることを思うと、一日一日をもっと大切にしたいと思いました。子ども発信と教師発信の両方が混じりあって、生成発展に繋がる保育、自分たちの保育に自信を持ち、さらに子どもたちと対話を続けていきたいと思いました。また、自由な遊びの中で経験は片寄らないという話を聞き、励まされたと同時に、子どもの育ちをしっかりととらえていかなければと思いました。

<今後の保育実践に生かしたいこと>

- 子どもたちが主体となり、対話をしながら問題解決に向かっていく姿を大切に、日々の保育も保育者の願いが前に出過ぎないように手助けも時にはするけれど、見守りながら子どもたちと遊んだり、課題に取り組んだりしていきたいと思えます。日誌の記録の仕方は出来るだけ具体的に書いていきたいと思えました。また、子ども一人一人の行動には意味があるという学びから、その子のことをよく観察し、記録をしたり、日々の連絡ノートなどでおうちの方にもどんなことに心を動かしているのか伝えていきたいと思えました。
- 計画を立案する上で柔軟さを大切にしつつ、子どもの生の姿、声に耳を傾けていきたいと思う。保育記録では、つい、楽しい、満足という言葉でまとめてしまいがちだが、具体的な姿を記したり、これらの言葉をどう書き換えるか考えたりしながら記録を残していきたい。認定こども園になってから、職員間で子どもの姿を語り合う時間がなかなか取れていないため、子どもから学んだこと、面白かったことなどを話す時間を少しでも設けていきたいと強く思った。

<講師の酒井より> …先生方のレポートから、発見や学びがたくさんありました。私がお伝えしたことを、先生方ご自身の日々の実践と結びつけ、それを記述してくださっていました。それを拝見したことで、今回の研修で、私自身が最も深い学びを得られたような気がします。そして、「先生方は日々子どもたちと豊かな実践をされているのだな」と改めて感じた次第です。先生方のレポートを拝見し、私自身がそれをまとめながら、またいつか研修等の機会がありましたらぜひこんなことをお話ししよう、などとメモしておりました。先生方のレポートの言葉が奥深く、そのおかげで私自身の学びや考えが深まりました。